

将来事業創出

持続的成長には、OKIの強みを活かした新たな事業領域を確実に伸ばすことが重要です。既存の事業領域の拡大だけでは限界があるため、新たな領域へ挑戦し、グローバル市場で成長するための道筋を確立する必要があります。そして、この道筋を強い意志で牽引していくことが求められています。

グローバル市場については、現時点ではまずCFB※を中心に事業化を推進していますが、将来の市場性とOKIの強みを踏まえた領域を明確にし、2031年のグローバルな事業の柱を確立していきます。

※CFB (Crystal Film Bonding)：異なった半導体材料を分子間力のみで接合し、電子デバイスの性能を飛躍的に向上させるOKIの独自技術

新たな事業創出に向けた取り組み

中期経営計画2025に沿って、2023年11月にイノベーション戦略2025を発表しました。「物流」「ヘルスケア・医療」「高度遠隔運用」「CFB」の4領域をイノベーション注力領域とし、初年度から売上と有償PoC件数をKPIとして活動してきました。これらは、未成熟だが今後数兆円規模への市場スケールが期待でき、かつOKIの強みである、高品位ネットワーク、リアルタイムインタラクションを有した「エッジプラットフォーム」が活かせる領域として設定したもので、パートナー各社との共創により市場参入を目指します。

「物流」領域では、2023年5月からAIによる配送計画最適化サービス「LocoMoses」の商用サービスを開始、着実にユーザー数を伸ばしています。また、「ヘルスケア・医療」領域では、2024年4月に行動変容プラットフォーム「Wellbit」を発表しました。「高度遠隔運用」領域では、商用化を見据えた有償PoCがスタートしています。OKIのイノベーション・マネジメントシステム(IMS)である「Yume Proプロセス」に則ってしっかりと現場に入り込み、価値仮説の解像度を上げながら、2024年度には価値検証、2025年度の商用化に向けて活動しています。

そして、OKI創業150周年である2031年をターゲットに、500億円以上の事業創出を目指すとともに、グローバル展開も並行して進めることにより、さらなる売上拡大を目指していきます。



CFBの注力事業の一つとして、今後市場拡大が期待されるパワー半導体の素材あるいは技術提供による新規事業創出を目指しています。信越化学工業株式会社との共創により、同社のQST基板から、CFBを用いてGaN機能層のみを剥離し、異種材料基板上へ接合することで、次世代パワー半導体として有望視されているGaNの縦型導電を可能にします。現在、新たにデバイスメーカーを加えたエコシステムの構築を実現、OKI西横手工場へ8インチパイロットラインの増設、さらにグローバル人材を活用したマーケティング体制の強化に取り組んでいます。本事業は2028年度より量産を開始し、グローバル展開を経てパワー半導体業界のゲームチェンジャーとなり、将来的にはOKIの主力事業へと成長させます。

また、他の事業領域（物流、ヘルスケア・医療、高度遠隔運用）についても、Global Innovation Hub※を活用した事業化を推進しています。 ※Global Innovation Hub：グローバル部隊（グローバルマーケティングセンターなど）とイノベーション部隊（イノベーション事業開発センターなど）とのコンビネーション

パワー半導体業界のゲームチェンジャーを目指す

エコシステム構築



成長投資



体制強化



詳細はWebサイトをご参照ください。
プレスリリース：将来事業創出と企業風土改革に向けた「イノベーション戦略2025」を策定
<https://www.oki.com/jp/press/2023/11/z23057.html>
プレスリリース：AIによる配送計画最適化サービス「LocoMoses」の販売開始
<https://www.oki.com/jp/press/2023/03/z22083.html>
プレスリリース：健康行動の習慣化を支援する行動変容プラットフォーム「Wellbit」開発
<https://www.oki.com/jp/press/2024/04/z24006.html>